

# 総会報告

## 第 21 回通常総会報告

日 時：平成 15 年 3 月 11 日(火) 14 時 00 分～15 時 00 分  
 会 場：弓町クラブ大会議室(東京都文京区本郷 1 25 26)  
 出席社員数：93 名(内委任状 68 名)

(社員数総数：101, 総会成立の定数 52 名以上)

### 議 案：

- (1) 平成 14 年度事業報告 [第 1 号議案]
- (2) 平成 14 年度収支決算書報告 [第 2 号議案]
- (3) 平成 15 年度事業計画 [第 3 号議案]
- (4) 平成 15 年度収支予算 [第 4 号議案]
- (5) 個人会員除名処分の件 [第 5 号議案]
- (6) 平成 15 年度役員の内 [第 6 号議案]
- (7) 平成 15 年度評議員の内 [第 7 号議案]

### 議 事：

午後 2 時, 定款第 24 号に基づき江尻正員会長が議長となり, 出席者が定款 26 条に定める定足数に達しているとの旨報告の上, 第 21 回通常総会の開会を宣した。

次いで, 以下の各議案について提案および詳細な説明があり, 逐次審議を行った結果, いずれも原案どおり異議なく可決された。

各議案の内容は以下のとおり。

### 【第 1 号議案】

平成 14 年度 事業 報 告  
 (自平成 14 年 1 月 1 日 至平成 14 年 12 月 31 日)

### I 庶 務

#### 1. 会員状況

	(平成 14 年 12 月 31 日現在)	(平成 13 年 12 月 31 日現在)	増減
名誉会員	7 名	5 名	2 名増
正 会 員	2,895 名	2,865 名	30 名増
学生会員	1,063 名	1,028 名	35 名増
賛助会員	68 団体 (98 口)	70 団体 (105 口)	2 団体減 (7 口減)

#### 2. 第 20 回総会

会 期：平成 14 年 3 月 12 日(火)

会 場：弓町クラブ

出席社員数：85 名(うち委任状提出：55 名)

(正社員総数：108 名, 総会成立の定数 55 名以上)

議 題：平成 13 年度の事業・決算案, 平成 14 年度の事業計画・予算案, 個人会員除名処分, 理事・幹事の選任の件, 評議員の選任の件

上記について審議し, 議決した。

#### 3. シンポジウム, 講習会等の主催, 共催, 協賛, 後援

- (1) シンポジウム, 国際会議, 講演会, 講習会, コンテスト等 7 件を主催した。
- (2) シンポジウム, 国際会議, 講習会, コンテスト等 22 件を共催した。
- (3) シンポジウム, 国際会議, 講演会, 講習会, 展示会, 研究会等 75 件を協賛した。
- (4) シンポジウム, 国際会議, 講習会, コンテスト, 展示会等 13 件を後援・協力した。

#### 4. 委員会

下記の委員会を開催した。

- (1) 会誌編集委員会 (委員長：下山 勲)
- (2) 欧文誌委員会 (委員長：松野文俊)

- (3) 事業計画委員会 (委員長：荒井裕彦)
- (4) 国際委員会 (委員長：小菅一弘)
- (5) 第 20 回学術講演会実行委員会 (委員長：新井健生)
- (6) 第 16 回論文賞・第 17 回研究奨励賞選考委員会 (委員長：杉本 旭)

- (7) 第 7 回実用化技術賞選考委員会 (委員長：吉川恒夫)
- (8) 出版事業委員会 (委員長：小林 宏)
- (9) ロボット工学ハンドブック改訂委員会 (委員長：増田良介)
- (10) 電子化準備委員会 (委員長：杉本 旭)
- (11) 国際化検討委員会 (委員長：吉川恒夫)
- (12) アドバイザリーボード (委員長：江尻正員)
- (13) 将来ビジョン策定委員会 (委員長：江尻正員)
- (14) 20 周年記念事業委員会 (委員長：三浦宏文)

#### 5. 役員および評議員の選出

平成 14 年度の理事・監事ならびに評議員を選出した。

#### 6. 評議員会, 理事会

(1) 平成 14 年 10 月 12 日(土) に第 20 回評議員会を開催し, 会務報告と評議を行った。

(2) 平成 14 年度中に 10 回理事会を開催し, 会務の審理と処理を行った。

#### 7. フェロー, 名誉会員の選任

12 名のフェローと 2 名の名誉会員を選任した。

#### 8. 電子化準備委員会

(1) 学会誌検索システムの PDF 公開までの期間を約半年に短縮した。

#### 9. 事務局

(1) 電子化準備委員会と連携し, 事務局体制の整備および OA 化の一環としてネットワークを常時接続とした。

(2) 名簿編集委員会を設置し, 2002 年度会員名簿を発行した。

(3) 文科省指導に基づき WEB にて学会の情報公開を行った。

(4) 関連理事・委員会と協力し, 20 周年記念事業(行事, 出版など)を実施した。

### II 事 業

#### 1. 学術講演会・シンポジウム等

##### (1) 創立 20 周年記念学術講演会

期 日：2002 年 10 月 12 日(土)～14 日(月)

会 場：大阪大学豊中キャンパス全学共通教育機構棟

組 織：組織委員長：白井良明(大阪大学)

実行委員長：新井健生(大阪大学)

プログラム委員長：三浦 純(大阪大学)

発表件数：590 件

13 パラレルセッション

一般セッション：63 セッション

オーガナイズドセッション：28 セッション

合計 91 セッション

##### 創立 20 周年記念行事：

記念式典

記念講演 3 件

「21 世紀のロボティクスと社会」, 「SF とロボティクス」, 「ロボティクスの進化(パネル討論)」

特別セッション 2 件

「ロボット工学の過去未来 I」, 「ロボット工学の過去未来 II」

ロボットデモンストレーション

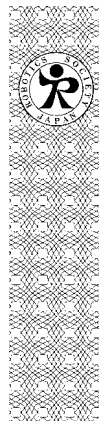
「ロボカップサッカー」, 「ロボカップレスキュー」, 「レスキューロボットコンテスト」

こども絵画コンクール展示

参加登録者数：1,163 名

正会員 572 名, 学生会員 475 名,

非会員 21 名, 学生非会員 77 名, 招待者 18 名



(2) 文科省科研費補助・研究成果公開事業

「知能ロボット 20 年の歩みと展望に関するシンポジウム ロボット技術は社会を大改革できるか」

期 日：2002 年 10 月 15 日(火)  
 会 場：大阪大学吹田キャンパスコンベンションセンター MO ホール  
 内 容：第 1 部 「使われたロボット技術，変革を目指したロボット技術」講演 1 件  
 第 2 部 「産業構造変革を推進するロボット」講演 7 件  
 第 3 部 「ロボット研究のあり方総点検」討論  
 参加者数：82 名

2. ロボット工学セミナー

(1) 第 12 回シンポジウム「人間協調・共存型ロボットシステム (HRP)」

期 日：2002 年 2 月 13 日(水)  
 会 場：発明会館ホール  
 共 催：(財)製造科学技術センター  
 後 援：新エネルギー・産業技術総合開発機構  
 講 師：井上博允(東京大学)ほか  
 パネルディスカッション：瀬名秀明(作家)ほか  
 オーガナイザ：永嶋史朗(富士通研究所)  
 参加者：254 名

(2) 第 13 回シンポジウム「ウェアラブル・ロボティクスの現状の将来」

期 日：2002 年 4 月 26 日(金)  
 会 場：東京理科大学  
 講 師：塚越秀行(東京工業大学)，山田陽滋(豊田工業大学)，川村貞夫(立命館大学)，小林 宏(東京理科大学)  
 オーガナイザ：小林 宏(東京理科大学)

参加者：53 名(会員 42 名，会員外 5 名，学生 6 名)

(3) 第 14 回シンポジウム「ロボットの作り方 ハードウェア編」

期 日：2002 年 5 月 20 日(月)  
 会 場：東京工業大学  
 講 師：広瀬茂男(東京工業大学)，新井健生(大阪大学)，金子 真(広島大学)

見 学 会：東京工業大学ロボット関連研究室

オーガナイザ：武田行生(東京工業大学)

参加者：69 名(会員 34 名，会員外 6 名，学生 29 名)

(4) 第 15 回シンポジウム「生体・生理・感性ロボティクスの最新動向」

期 日：2002 年 7 月 26 日(金)  
 会 場：工学院大学  
 講 師：菅野重樹(早稲田大学)，佐藤知正(東京大学)，渡辺富夫(岡山県立大学)，辻 敏夫(広島大学)

オーガナイザ：福田 修(産業技術総合研究所)

参加者：47 名(会員 26 名，会員外 6 名，学生 15 名)

(5) 第 16 回シンポジウム「実用段階に入った医療ロボティクス」

期 日：2002 年 11 月 27 日(水)  
 会 場：工学院大学  
 講 師：佐久間一郎(東京大学)，菅 和俊(日立製作所)，神野 誠(東芝)，橋爪 誠(九州大学)

オーガナイザ：桃井康行(日立製作所)

参加者：51 名(会員 31 名，会員外 14 名，学生 6 名)

(6) 第 17 回シンポジウム「リアルワールド x バーチャルワールド」

期 日：2002 年 12 月 6 日(金)  
 会 場：工学院大学  
 講 師：山本裕之(キヤノン)，森島繁生(成蹊大学)，橋本秀紀(東京大学)，生田幸士(名古屋大学)

オーガナイザ：柴田昌明(成蹊大学)

参加者：12 名(会員 7 名，会員外 2 名，学生 3 名)

3. 共催事業

(1) 第 7 回ロボティクスシンポジウム

期 日：2002 年 3 月 18 日(月)~ 19 日(火)  
 会 場：長野県上田市別所温泉  
 主 催：日本ロボット学会，日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門，計測自動制御学会システムインテグレーション部門  
 組 織：実行委員長：河村 隆(信州大)  
 プログラム委員長：橋本 稔(信州大)  
 発表件数：16 セッション 64 件  
 参加者数：110 名

(2) ロボカップ 2002 福岡・釜山

期 日：2002 年 6 月 19 日(水)~ 25 日(火)  
 会 場：福岡ドームほか(福岡県福岡市)  
 主 催：ロボカップ国際委員会，ロボカップ日本委員会，ロボカップ 2002 福岡実行委員会  
 実行委員長：大野 茂(九州・山口経済連合会会長)  
 R S J 賞：RoboDragons(愛知県立大)，GMD Musashi(ドイツ国立情報処理研，九工大)

(3) 第 14 回知能ロボットコンテスト 2002

期 日：2002 年 6 月 29 日(土)~ 30 日(日)  
 会 場：仙台市科学館  
 実行委員長：中野栄二(東北大学)  
 日本ロボット学会会長賞：たまちゃん(京大機械研究会)

(4) 第 2 回レスキューロボットコンテスト

期 日：2002 年 8 月 17 日(土)~ 18 日(日)  
 会 場：よみうり文化センター  
 実行委員長：大須賀公一(京都大学)  
 日本ロボット学会賞(ベストロボット賞)：ぞうさん(明石工業高等専門学校)

4. 出版事業

(1) 「新版ロボット工学ハンドブック」の原稿の催促，寄稿された原稿の査読，全体の調整作業を新版ロボット工学ハンドブック編集委員会により行った。

(2) 会員名簿編集委員会を発足させ，会員名簿の編集，発行を行った。

III 学会誌

学会誌第 20 巻第 1 号より第 8 号を刊行し，会員に配布した。各号の特集テーマは以下の通りである。

Vol. 20	No. 1	ロボカップ	122 頁
Vol. 20	No. 2	マニピュレーション：21 世紀に向けた新展開	100 頁
Vol. 20	No. 3	ロコモーション	127 頁
Vol. 20	No. 4	センシング技術 光と影	112 頁
Vol. 20	No. 5	ロボットの知能とシステム統合	94 頁
Vol. 20	No. 6	創立 20 周年記念特集	103 頁
Vol. 20	No. 7	ロボット新ビジネス	117 頁
Vol. 20	No. 8	ウェアラブルロボティクス	121 頁

平成 14 年度は 20 年の節目にあたるので，これまでのロボット研究・開発を振り返り新たな一歩を踏み出す企画とした。昨年度，学会創立 20 周年記念企画として編集，製作した DVD ROM を学会誌第 20 巻第 2 号に同梱して会員に配布した。これは本会会員が過去に発表して世の中にインパクトを与えた著名な論文を収録したものであり，約 35 年前から数年前までの，すでに評価が定着した論文 130 編強を集め，その論文を執筆した当時の実験風景や当時の装置の写真やビデオも併せて収録している。また，これに連動して第 2 号～ 5 号で，マニピュレーション，ロコモーション，センシング，ブランニングについての特集号を刊行した。さらに第 6 号は 20 周年記念特集として，ロボット研究にたずさわってきた方々に個人的に振り返っていただき，今後のロボット研究のあり方の参考になるような特集を行った。

第 7 号では，ロボット研究の新たなスタート点としてロボットがビジネスとなるか，どのようなシナリオが考えられるかという視点での特集を行った。

論文査読小委員会においては、査読プロセス改善の検討が行われた。これは査読期間の短縮、査読の効率化を目指すもので、投稿者および読者にメリットを生み出し、日本ロボット学会誌の論文誌としてのステータス向上を図るものである。これについては来年度も継続して議論することになった。また電子化、情報公開の一環として投稿論文の査読の進捗状況に関する情報を著者らが閲覧できるようにした。

#### IV 欧文誌

##### 1. 欧文誌編集・発行

Vol. 16 を発行した。各号の詳細は以下の通りである。

Vol. 16 No. 1 Recent Advance in Underwater Robotics (2) + 一般論文

Vol. 16 No. 2 Super Mechano Systems (3) + 一般論文

Vol. 16 No. 3 IROS 2000 (2)

Vol. 16 No. 4 Advanced Robot Motion Control + 一般論文

Vol. 16 No. 5 IROS 2001 の論文 (3)

Vol. 16 No. 6 20周年記念特集号 Cutting Edge of Robotics in Japan 2001 (Disaster Response Robotics)

Vol. 16 No. 7 一般論文

Vol. 16 No. 8 一般論文

##### 2. 学術誌としての認知度と評価の向上

2002年度は一般投稿論文数(特集論文以外の論文数)の増大と購読数の増大を目標にさまざまな機会をとらえて広報活動を行った。その結果、一般論文投稿数は対前年度比で25%増となり、個人会員による購読数は対前年度比で13%増となった。また、海外からの一般論文投稿数は対前年度比22%増となった。

ちなみに、欧文誌は1997年よりInstitute for Scientific Information (ISI)社のCitation Indexの対象誌となっており、また一般論文の投稿件数が毎年増加していることから、国際的な学術論文誌としての認知が高まっているといえる。欧文誌に掲載されることが、各論文執筆者の業績評価につながる指標(Citation Indexなど)獲得の点で有利なことを今後積極的にアピールしていきたい。

##### 3. 共同事業者との連携強化

欧文誌発行の共同事業者であるBrill/VSP社との連携を強化した。特に年1~2回両者が会合を持って将来展望や実務的な打ち合わせを行う体制を整え、今年度は2002年10月にスイスで、2003年1月に東京で会合を開き、現状での問題点の解決策と今後の事業展開について意見交換を行った。その結果、2003年は現状の年8号出版から増号し、年10号出版することを決定した。これに伴い年間の購読料5000円から6000円に値上げされたが、多くの重要な情報を素早く提供するとともに論文の投稿から掲載までの時間を短縮し、会員へのサービス向上を図ることを目指す。また、論文査読プロセスの時間短縮の対策として、Brill/VSP社と欧文誌の論文の電子投稿を検討している。現状では投稿から採否の決定までの期間は平均15.2週であり、今後さらなる短縮を実現していく。

##### 4. 国際化の検討

###### (1) 欧文誌編集委員会の国際化

編集委員会のうち欧文誌査読委員会のメンバーの国際化を図るための人選を行い、2003年度より大幅な国際化を行うことを決定した。また、欧文誌の国際編集委員会を国際会議(IEEE/RSJ IROS, IEEE ICRAなど)に合わせて開催することとした。

###### (2) 学会の国際化

前年度に引き続き理事会の下に国際化検討委員会(委員長:吉川副会長)を設けて本学会の国際化に伴う諸問題の検討を行った。特に、欧文誌を学会の国際化の有力な目玉としてアピールし、外国人の正会員の獲得に努力した。具体的には、入会案内パンフレットを作成し、国際訴訟関連の専門の弁護士に内容の検討を依頼し、完成したものを2002年12月から国際会議などで配布し始めた。今後も、積極的に勧誘を行っていききたい。また、外国人学生会員の便宜を考え、学生会員の選択制についても検討を始めた。

#### V 企画

##### 1. 調査・研究専門委員会活動

###### (1) 2001年度から継続の委員会

・生体組織を対象とする微細作業高度化研究専門委員会

(委員長:新井健生, 01.1 発足)

2002年12月をもって終了した。

・地域社会ニーズ対応型ロボット・メカトロニクス研究専門委員会

(委員長:和田充雄, 01.1 発足)

2002年12月をもって終了した。

・人道的対人地雷除去技術研究専門委員会

(委員長:木下源一郎, 01.1 発足)

2002年12月をもって終了した。

###### (2) 2002年度から継続の委員会

・ロボット研究20年が果たした役割と今後の展望に関する調査研究委員会

(委員長:大道武生, 02.1 発足)

##### 2. 表彰等

2002年10月開催の第20回学術講演会において、以下の論文賞4件、実用化技術賞3件、研究奨励賞10件の授賞を行った。なお、論文賞のうち1件はAdvanced Roboticsからの外国人の授賞であったため、共催している国際学会のIROS 2002にて授賞を行った。

###### 【論文賞】

・遠藤 玄, 広瀬茂男(東京工業大学)

「ローラーウォーカーに関する研究 システムの構成と基本的動作実験」 (第18巻2号, pp. 270-277)

・琴坂信哉(科学技術振興事業団), Stefan Schaal(南カリフォルニア大学)

「神経振動子を用いたロボットのリズムミク運動生成」

(第19巻1号, pp. 116-123)

・山崎信行(慶應義塾大学), 松井俊浩(電子技術総合研究所)

「並列分散リアルタイム制御用レスポンスプロセッサ」

(第19巻3号, pp. 352-361)

・Joseph S. Spano, Haruhiko, H. Asada (Massachusetts Institute of Technology)

「Design of surface wave active beds based on human tissue physiology」

(Advanced Robotics, Vol. 14, No.8, pp. 717-742)

###### 【実用化技術賞】

・藤田雅博, 景山浩二, 大規 正, 天貝佐登史, 土井利忠(ソニー(株))

「エンターテインメントロボットAIBO」

・鴻巣仁司(トヨタ自動車(株)), 荒木 勇((株)アラキ製作所), 山田陽滋(豊田工業大学)

「自動車組立作業支援装置 スキルアシスト」

・茶山和博, 鈴木 修, 源 雅彦, 藤岡 晃((株)フジタ), 河崎英己, 吉永勝彦(国土交通省)

「ロボQ(遠隔操縦ロボット)」

###### 【研究奨励賞】

・池田貴幸(東京工業大学制御システム工学科)

「可変拘束制御を用いた3次元脚式ロボットの走行制御」

(第6回ロボティクスシンポジウム)

・岩瀬英治(東京大学大学院情報理工学系研究科知能機械情報学専攻)

「磁性体薄膜を用いた3次元微小構造群の一括組み立て」

(第19回学術講演会)

・河合俊和((株)日立製作所機械研究所)

「微細マニピュレータ用交換可能微細鉗子の動特性向上」

(第19回学術講演会)

・河上篤史(東京工業大学大学院理工学研究科機械物理工学専攻)

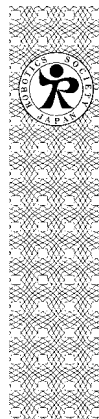
「小型単腕型1輪ローバーの開発(第3報)第3次モデルの試作とその動作特性の検討」 (第19回学術講演会)

・川野 洋(東京大学大学院工学系研究科環境海洋工学専攻)

「強潮流下での航行を想定した自律型海中ロボットの訓練システム」

(第6回ロボティクスシンポジウム)

・齋藤滋規(東京工業大学大学院理工学研究科国際開発工学専攻)



「凝着力を考慮した力学に基づく電顕下微小物体操作法分析」  
 (第19回学術講演会)

・清水昌幸(東北大学大学院工学研究科機械知能学専攻)  
 「Structured Compliance を用いた物体の組付けに関する研究 第3報:  
 Compliance Center を用いた空間内における組付け」  
 (第19回学術講演会)

・下田真吾(東京大学宇宙科学研究所)  
 「微小重力下におけるスプリングを利用した移動機構の実験的検証」  
 (第19回学術講演会)

・福岡泰宏(電気通信大学大学院情報システム学研究科情報システム運用学専攻)  
 「四足ロボットを用いた創発現象としての不整地歩行の実現」  
 (第19回学術講演会)

・福山純也(名古屋大学工学部マイクロシステム工学専攻)  
 「バーチャル内視鏡システムの研究(第6報)システム全体のポータブル化と大腸大变形モデルの臨床対応化」  
 (第19回学術講演会)

3. 国際関連

本会に関連する国際会議を共催/協賛した.

主な共催会議:

- (1) International Symp. on Artificial Life and Robotics (AROB 7th 2002)  
 期日: 2002年1月16日~1月18日, 会場: 大分, 日本
- (2) The RoboCup 2002 International Symposium  
 期日: 2002年6月24日~6月25日, 会場: 福岡, 日本
- (3) 6th International Symposium on Distributed Autonomous Robotic Systems (DARS 2002)  
 期日: 2002年6月25日~6月27日, 会場: 福岡
- (4) 2002 Japan USA Symposium on Flexible Automation (2002 JUSFA)  
 期日: 2002年7月15日~7月17日, 会場: 広島, 日本
- (5) IEEE/RSJ International Conf. on Intelligent Robots and Systems (IROS 2002)  
 期日: 2002年9月30日~10月4日, 会場: Lausanne, スイス
- (6) 2002 International Symposium on Micromechatronics and Human Science (MHS 2002)  
 期日: 2002年10月20日~10月23日, 会場: 名古屋, 日本

4. その他活動

表彰規程, 学会役員報酬および退職金に関する規程など, 各種規定について実務上・解釈上不明瞭であった内容を改訂した.

【第2号議案】

平成14年度収支決算書報告

1 一般会計

平成14年度収支決算書

平成14年1月1日から平成14年12月31日まで

収入の部		(単位: 円)
科 目		決 算 額
1. 基本財産運用収入		10,500
基本財産利息収入		10,500
2. 会費収支		42,337,000
正会員会費		29,120,000
学生会員会費		4,657,000
賛助会員会費		8,560,000
3. 入会金収入		548,000
正会員入会金		146,000
学生会員入会金		402,000
4. 事業収入		29,598,925
会誌掲載料		11,453,925
欧文誌事業		800,000
学術講演会		14,026,000
講習会		1,889,000
公開シンポジウム		1,430,000
5. 諸収入		11,404,669
受取利息		26,392
広告料収入		5,377,385
資料頒布収入		4,983,751
雑収入		1,017,141
当期収入合計(A)		83,899,094
前期繰越収支差額		34,996,732
収入合計(B)		118,895,826

注1. 公開シンポジウム収入は, 文部科学省からの交付金である.

支出の部

(単位：円)

科 目	決 算 額
1. 事業費	40,014,162
会誌事業費	22,670,614
出版費	( 14,746,102 )
郵送費	( 5,207,332 )
編集費	( 2,121,870 )
電子化準備委員会費	( 595,310 )
欧文誌事業費	3,597,889
編集費	( 667,539 )
業務委託費	( 2,520,000 )
出版費	( 410,350 )
学術講演会開催費	10,392,590
講習会開催費	813,951
公開シンポジウム開催費	1,430,000
専門委員会費	300,000
研究専門委員会費	( 300,000 )
調査専門委員会費	( 0 )
産業社会委員会費	( 0 )
広告制作費	320,249
表彰費	488,869
2. 管理費	35,194,904
総会費	729,807
給料手当	16,064,510
臨時雇賃金	1,650,846
福利厚生費	1,201,336
租税公課	661,900
旅費交通費	145,850
通信運搬費	978,031
備品消耗品費	593,008
会議費	185,384
印刷製本費	973,369
光熱水料費	359,692
賃借料	7,478,606
諸謝金	1,196,070
雑費	2,298,358
会費収納費	678,137
3. 雑損失	788,800
雑損失	788,800
4. 特定預金支出	638,016
退職給与引当預金支出	638,016
5. 繰入金支出	16,000,000
学会運営特別会計繰入金支出	16,000,000
6. 予備費	0
予備費	0
当期支出合計(C)	92,635,882
当期収支差額(A)-(C)	8,736,788
次期繰越収支差額(B)-(C)	26,259,944

正味財産増減計算書

平成 14 年 1 月 1 日から平成 14 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額		
増加の部			
1. 資産増加額			
退職給与引当預金増加額	638,431	638,431	
増加額合計			638,431
減少の部			
1. 資産減少額			
当期収支差額	8,736,788		
2. 負債増加額			
退職給与引当金繰入額	638,431	9,375,219	
減少額合計			9,375,219
当期正味財産減少額			8,736,788
前期繰越正味財産額			59,484,132
期末正味財産合計額			50,747,344

貸借対照表

平成 14 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(流動資産)	( 52,985,826 )	(流動負債)	( 26,725,882 )
現金	677,739	未払金	674,600
普通預金	25,420,900	前受会費	25,508,000
振替貯金	17,603,596	前受金	28,000
郵便貯金	1,000,000	預り金	515,282
未払会費			
未収金	1,774,000	(固定負債)	( 4,194,184 )
前払金	5,246,200	退職給与引当金	4,194,184
立替金	1,004,191		
(固定資産)	259,200	(正味財産)	( 50,747,344 )
[基本財産]	( 28,681,584 )	正味財産	50,747,344
定期預金	( 21,000,000 )	[うち基本金]	[ 21,000,000 ]
[有形固定資産]	21,000,000	[当期正味財産減少額]	[ 8,736,788 ]
什器備品	( 834,300 )		
[その他の固定資産]	834,300		
退職給与引当預金	( 6,847,284 )		
電話加入権	4,194,184		
保証金	153,100		
	2,500,000		
資産合計	81,667,410	負債・正味財産合計	81,667,410

財 産 目 録  
平成 14 年 12 月 31 日現在

資産の部		
科 目	摘 要	金 額
現 金	手許有高	677,739 円
普 通 預 金	東京三菱銀行虎ノ門公務部 9,484,134 円	
	みずほ銀行本郷支店 6,994,333	
	みずほ銀行本郷支店 5,292,713	
	あさひ銀行本郷支店 3,477,752	
	三菱信託銀行丸の内支店 171,968	25,420,900
振 替 貯 金	本郷 郵便局	17,603,596
郵 便 貯 金	本郷 郵便局	1,000,000
未 収 会 費	会費 平成 14 年度分	1,774,000
未 収 金	学会誌投稿料・広告料他	5,246,200
前 払 金	平成 15 年 1 月分事務所家賃他	1,004,191
立 替 金	欧文誌購読料	259,200
定 期 預 金	基本財産(東京三菱銀行 自由金利型定期)	21,000,000
什 器 備 品	事務用器具備品	834,300
退職給与引当預金	東京三菱銀行本郷支店	4,194,184
電 話 加 入 権	2 本	153,100
保 証 金	賃貸借契約保証金	2,500,000
資 産 合 計		81,667,410 円

負債の部		
科 目	摘 要	金 額
未 払 金	会計顧問料他	674,600 円
前 受 会 費	会費前受分	25,508,000
前 受 金	講習会参加費	28,000
預 り 金	源泉所得税 265,533 円	
	住民税 14,500	
	社会保険料 177,249	
	欧文誌購買料 58,000	515,282
退職給与引当金	退職給与分	4,194,184
負 債 合 計		30,920,066 円
差 引 正 味 財 産		50,747,344 円

II 学会運営特別会計

平成 14 年度収支計算書

平成 14 年 1 月 1 日から平成 14 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
20 周年記念 CD ROM 出版費	16,000	受取利息	32,458
20 周年記念事業費	3,195,500	一般会計繰入金収入	16,000,000
雑 費	525	前期繰越収支差額	57,946,832
次期繰越収支差額	70,767,265		
合 計	73,979,290	合 計	73,979,290

正味財産増減計算書

平成 14 年 1 月 1 日から平成 14 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
増加の部		
1. 資産増加額		
当期収支差額	12,820,433	12,820,433
増加額合計		12,820,433
当期正味財産増加額		12,820,433
前期繰越正味財産額		57,946,832
期末正味財産合計額		70,767,265

賃借対照表

平成 14 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負債・正味財産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
普 通 預 金	30,800,308	正 味 財 産	70,767,265
定 期 預 金	39,070,742	( 当期正味財産増加額 )	( 12,820,433 )
未 収 金	896,215		
合 計	70,767,265	合 計	70,767,265

財 産 目 録

平成 14 年 12 月 31 日現在

資産の部

科 目	摘 要	金 額
普通預金	あさひ銀行本郷支店 14,303,592 円	円
	三井住友銀行春日支店 9,050,050	
	みずほ銀行本郷支店 7,446,666	30,800,308
定期預金	あさひ銀行本郷支店 10,000,000	
	東京三菱銀行虎ノ門公務部 10,000,000	
	東京三菱銀行虎ノ門公務部 6,070,742	
	三菱信託銀行丸の内支店 13,000,000	39,070,742
未 収 金	学術講演会 RJSJ 2002 版払金精算残額 896,215	896,215
資 産 合 計		70,767,265 円

負債の部

科 目	摘 要	金 額
		0 円
負 債 合 計		0 円
差 引 正 味 財 産		70,767,265 円

III 国際会議および共催会議基金特別会計

平成 14 年度収支計算書

平成 14 年 1 月 1 日から平成 14 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
表 彰 費	150,000	受 取 利 息	835
旅 費 交 通 費	400,000	雑 収 入	3,189,436
雑 費	19,460	前期繰越収支差額	5,886,326
次期繰越収支差額	8,507,137		
合 計	9,076,597	合 計	9,076,597

正味財産増減計算書

平成 14 年 1 月 1 日から平成 14 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
増加の部		
1. 資産増加額		
当期収支差額	2,620,811	2,620,811
増加額合計		2,620,811
当期正味財産増加額		2,620,811
前期繰越正味財産額		5,886,326
期末正味財産合計額		8,507,137

貸借対照表

平成 14 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負債・正味財産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
普通預金	7,620,237	正味財産	8,507,137
仮払金	886,900	(当期正味財産増加額)	(2,620,811)
合 計	8,507,137	合 計	8,507,137

財 産 目 録

平成 14 年 12 月 31 日現在

資産の部

科 目	摘 要	金 額
普通預金	あさひ銀行本郷支店	7,620,237 円
仮払金	IROS 2003 分担金	886,900
資 産 合 計		8,507,137 円

負債の部

科 目	摘 要	金 額
		0 円
負 債 合 計		0 円
差 引 正 味 財 産		8,507,137 円

IV 総括表

平成 14 年度収支計算書総括表

平成 14 年 1 月 1 日から平成 14 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

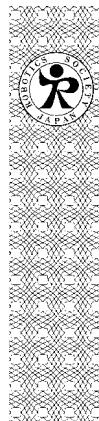
科 目	合 計	一般会計	国際会議及び 共催会議基金 特別会計	学会運営 特別会計	内部取引 消 却
収入の部					
基本財産運用収入	10,500	10,500			
会費収入	42,337,000	42,337,000			
入金収入	548,000	548,000			
事業収入	29,598,925	29,598,925			
諸収入	14,627,398	11,404,669	3,190,271	32,485	
一般会計繰入金	0			16,000,000	16,000,000
当期収入合計	87,121,823	83,899,094	3,190,271	16,032,458	16,000,000
前期繰越収支差額	98,829,890	34,996,732	5,886,326	57,946,832	
収入合計	185,951,713	118,895,826	9,076,597	73,979,290	16,000,000
支出の部					
事業費	43,775,662	40,014,162	550,000	3,211,500	
管理費	35,214,889	35,194,904	19,460	525	
雑損失	788,800	788,800	0	0	
特定預金支出	638,016	638,016			
繰入金支出	0	16,000,000			16,000,000
予備費	0	0	0	0	
当期支出合計	80,417,367	92,635,882	569,460	3,312,025	16,000,000
当期収支差額	6,704,456	8,736,788	2,620,811	12,820,433	0
次期繰越収支差額	105,534,346	26,259,944	8,507,137	70,767,265	0

平成 14 年度正味財産増減計算書総括表

平成 14 年 1 月 1 日から平成 14 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	国際会議及び共催 会議基金特別会計	学会運営 特別会計
増加の部				
資産増加額	16,079,675	638,431	2,620,811	12,820,433
増加額合計	16,079,675	638,431	2,620,811	12,820,433
減少の部				
資産減少額	8,736,788	8,736,788	0	0
負債増加額	638,431	638,431	0	0
減少額合計	9,375,219	9,375,219	0	0
当期正味財産増加額	6,704,456	8,736,788	2,620,811	12,820,433
前期繰越正味財産額	123,317,290	59,484,132	5,886,326	57,946,832
期末正味財産合計額	130,021,746	50,747,344	8,507,137	70,767,265



## 平成 14 年度貸借対照表総括表

平成 14 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	国際会議及び共催 会議基金特別会計	学会運営 特別会計
資産の部				
流 動 資 産	132,260,228	52,985,826	8,507,137	70,767,265
固 定 資 産	28,681,584	28,681,584		
(うち基本財産)	(21,000,000)	(21,000,000)		
資 産 合 計	160,941,812	81,667,410	8,507,137	70,767,265
負債の部				
流 動 負 債	26,725,882	26,725,882	0	0
固 定 負 債	4,194,184	4,194,184		
負 債 合 計	30,920,066	30,920,066	0	0
正味財産の部				
正 味 財 産	130,021,746	50,747,344	8,507,137	70,767,265
負債及び正味財産合計	160,941,812	81,667,410	8,507,137	70,767,265

## 監 査 報 告 書

社団法人 日本ロボット学会  
会 長 江 尻 正 員 殿

私共監事 2 名は、この総会資料に記載されている平成 14 年度の事業報告書ならびに同年度の一般会計、学会運営特別会計、国際会議および共催会議基金特別会計に関する収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録などにつき監査を実施しました。

監査の結果、いずれも一般に公正妥当と認められる公益法人の会計基準に準拠し、前年度と同一の会計方針を適用しており、また定款の定めに基づいているものと認めます。

以上

平成 15 年 3 月 3 日

社団法人 日本ロボット学会

監事 高 瀬 國 克 ㊞

監事 柿 倉 正 義 ㊞

## 【第 3 号議案】

## 平成 15 年度 事業計画案

(自平成 15 年 1 月 1 日 至平成 15 年 12 月 31 日)

## 1 庶 務

## 1. 第 21 回総会

会 期：平成 15 年 3 月 11 日(火)

会 場：弓町クラブ

## 2. 委員会活動

下記の委員会を開催する。

- (1) 会誌編集委員会 (委員長：末廣尚士)
- (2) 欧文誌委員会 (委員長：田所 諭)
- (3) 事業計画委員会 (委員長：高梨伸彰)
- (4) 国際委員会 (委員長：中内 靖)
- (5) 第 21 回学術講演会実行委員会 (委員長：広瀬茂男)
- (6) 第 17 回論文賞・第 18 回研究奨励賞選考委員会 (委員長：内山 隆)
- (7) 第 8 回実用化技術賞選考委員会 (委員長：中野栄二)
- (8) 出版事業委員会 (委員長：小林 宏)
- (9) ロボット工学ハンドブック改訂委員会 (委員長：増田良介)

- (10) 電子化準備委員会 (委員長：中野栄二)
- (11) 国際化検討委員会 (委員長：内山 隆)
- (12) アドバイザリーボード (委員長：吉川恒夫)
- (13) 将来ビジョン策定委員会 (委員長：吉川恒夫)

## 3. 役員・評議員の選出

平成 15 年度の理事・監事、ならびに評議員を選出する。

## 4. フェロー、名誉会員の選任

フェロー、名誉会員の推薦を行い選任する。

## 5. 学会の基盤強化

会員数の増強を図るため、入会勧誘を引き続き推進する。

## 6. 電子化準備委員会

- (1) 学会の電子化・情報化の進め方を引き続き策定する。

## 7. 事務局

- (1) 電子化準備委員会と連携し、事務局体制の整備および OA 化の一層の促進を図る。
- (2) 学会の将来ビジョンの考察を深め、中長期的な事務局体制について検討を進める。

## II 事 業

## 1. 学会講演会・シンポジウム等

## (1) 第 21 回学術講演会

期 日：2003 年 9 月 20 日(土)～ 22 日(月)

会 場：東京工業大学大岡山キャンパス(東京都目黒区)

組織委員長：広瀬茂男(東京工業大学)

実行委員長：米田 完(東京工業大学)

プログラム委員長：松野文俊(東京工業大学)

## 2. ロボット工学セミナー

## (1) 第 18 回シンポジウム「ハイパワー・ロボティクス」

期 日：2003 年 1 月 22 日(水)

会 場：工学院大学

講 師：水沼 涉(三菱重工(株))、柴沼 清(日本原子力研究所)、大谷圭一(防災科学技術研究所)、三神 泉(三菱電機)

## (2) 第 19 回シンポジウム「デジタルヒューマン基礎技術」

期 日：2003 年 3 月 5 日(水)

会 場：産業技術総合研究所臨海副都心センター

講 師：原田悦子(法政大学)、河内まき子(産業技術総合研究所)、持丸正明(産業技術総合研究所)、赤澤堅造(大阪大学)

## (3) 第 20 回シンポジウム「バイオ応用ロボティクスの現状と将来」

期 日：2003 年 4 月 11 日(金)

会 場：東京理科大学神楽坂校舎

講 師：新井健生(大阪大学)、高橋清也(農業技術研究機構畜産草地研究所)、谷川民生(産業技術総合研究所)、新井史人(名古屋大学)、三原孝士(オリパス光学工業)

## (4) 第 21 回シンポジウム「ビジョンシステムの基礎と応用」

期 日：2003 年 6 月 6 日(金)

会 場：東京理科大学神楽坂校舎

講 師：白井良明(大阪大学)、中村洋一(川崎重工業)、塙 圭二(富士重工業)、河本献太(ソニー)、片山保宏(航空宇宙技術研究所)

## (5) 第 22 回シンポジウム「ロボット教育」

期 日：2003 年 7 月(予定)

## (6) 第 23 回シンポジウム「水中ロボット技術の動向」

期 日：2003 年 8 月(予定)

## (7) 第 24 回シンポジウム「環境問題とロボティクス・メカトロニクス・IT」

期 日：2003 年 10 月(予定)

## (8) 第 25 回シンポジウム「ロボットと最適化」

期 日：2003 年 12 月(予定)

## 3. 共催事業

## (1) 第 8 回ロボティクス・シンポジウム

期 日：2003 年 3 月 17 日(月)～ 18 日(火)



会 場：浜名湖かんざんじ温泉（静岡県浜松市）  
主 催：日本ロボット学会，日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門，計測自動制御学会システムインテグレーション部門

実行委員長：松丸隆文（静岡大学）

#### (2) ロボカップジャパンオープン 2003 新潟

期 日：2003年5月1日(水)～5日(日)

会 場：朱鷺メッセ（新潟県新潟市）

主 催：ロボカップ日本委員会，ロボカップジャパンオープン 2003 新潟実行委員会

#### 4. 出版事業

(1) 「新版ロボット工学ハンドブック」の編集作業をまとめ，発行する。

#### III 学 会 誌

学会誌第 21 巻第 1 号より第 8 号を 1 月，3 月，4 月，5 月，7 月，8 月，10 月，11 月に刊行し，会員に配布する。各号の特集テーマは以下のもを予定している。

- Vol. 21 No. 1 気になるコンポーネント
- Vol. 21 No. 2 20 周年記念学術講演会 (I)
- Vol. 21 No. 3 20 周年記念学術講演会 (II)
- Vol. 21 No. 4 福祉とロボティクス
- Vol. 21 No. 5 月・惑星探査ローバ (仮)
- Vol. 21 No. 6 Localization (仮)
- Vol. 21 No. 7 ロボットソフトウェア (仮)
- Vol. 21 No. 8 群知能ロボット (仮)

平成 15 年度は，会誌編集プロセス，査読プロセスの見直しを行い，それぞれの作業の効率化，安定化を図る。会誌編集に関しては，前年度から特集号企画の遅れが目立っている。これは執筆者にも負担をかけるし，会誌自体の質の低下にもつながりかねない。本年度は，早め早めに企画を立て安定した活動を行えるようにする予定である。また論文査読プロセスについては，改善に関して前年度に大筋の合意が得られているので，次年度実施に向けて議論を詰め，体制作り，規定類の整備など具体的な活動を行っていく予定である。

さらに電子化準備委員会との連携を強化し，情報発信としての会誌ホームページの充実だけでなく，会誌編集，査読などのプロセスに関しても電子化による効率化を図る予定である。

#### IV 欧 文 誌

##### 1. 欧文誌 *Advanced Robotics* の発行計画

下記のとおり，2003 年度においては年 10 回の発行を計画している。

- Vol. 17 No. 1 Multi agent System Design
- Vol. 17 No. 2 IROS 2001 "Humanoid Robots"
- Vol. 17 No. 3 Advanced Multi modal Tele systems
- Vol. 17 No. 4 一般論文
- Vol. 17 No. 5 一般論文
- Vol. 17 No. 6 Surgical Assistant Robotics
- Vol. 17 No. 7 IROS 2002
- Vol. 17 No. 8 一般論文
- Vol. 17 No. 9 一般論文
- Vol. 17 No.10 Advanced 3D Vision and Its Application to Robotics

第 17 巻は年 10 号発行（第 16 巻は年 8 号発行）とし，多くの重要な情報を素早く提供するとともに論文の投稿から掲載までの時間を短縮し，会員へのさらなるサービス向上を図る。また，海外の読者に対しても魅力的な情報の発信を続けていく。

##### 2. 欧文誌の国際的認知度向上のための努力

前年度に引き続き一般論文の投稿数と購読数の増大等を通じて国際的認知度のさらなる向上を目指す。ここ 2 年くらいで，掲載論文の半数を一般投稿論文とすることを目指す。

このため，(1) 欧文誌が ISI 社の *Citation Index* の対象誌となっており，本誌への論文掲載が研究者としての実績評価に大きく貢献することを積極的にアピールする，(2) IROS 等の本学会主催行事と連携する，(3) タイムリーなテーマの特集号を企画して魅力的で引用されやすい誌面作りを目指すなど，さまざまな機会を逃がさず優れた論文の投稿や定期購読を勧誘する努力を続ける。

また，欧文誌査読委員の国際化に伴い，国際会議 (IEEE/RSJ IROS, IEEE ICRA など) において国際編集委員会を開催する。

さらに，論文執筆者にとってより投稿しやすい論文誌とすることを目的に，投稿から出版までのターンアラウンドの短縮を目指して編集プロセスのさらなる電子化や共同事業者である Brill/VSP 社との電子的連携について検討する。また，今後の事業展開についても Brill/VSP 社と打ち合わせを継続していく。

##### 3. 国際化の検討

本学会の国際化を図るため，国際化検討委員会を継続設置して国際化のための方策と関連する諸問題について引き続き検討する。特に，外国人学生会員の欧文誌のみの購読希望を配慮して，学生会員の選択制について引き続き議論する。

#### V 企 画

##### 1. 調査・研究専門委員会活動

2002 年度より継続の以下の研究専門委員会による委員会調査活動を行う。

- ・ロボット研究 20 年が果たした役割と今後の展望に関する調査研究委員会  
(委員長：大道武生，02.1 発足)

##### 2. 将来ビジョンの策定

国際化の究極のゴールを和文誌は日本語による情報誌，欧文誌をオフィシャルな論文誌とする等にイメージし，英語ホームページの充実や各種ドキュメントの英語化を段階的に検討していく。ただし，日本からの情報発信の立場は崩さない。

##### 3. 表彰

第 21 回学術講演会において，論文賞，実用化技術賞および研究奨励賞の表彰を行う。また，各部団体からの推薦依頼 (ファナック FA ロボット財団など) に対し積極的に取り組んでいく。

##### 4. その他活動計画

(1) 各種規程の整備を行う。

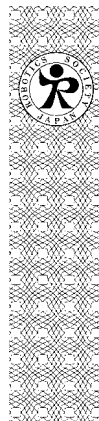
(2) 本会に係わる国際会議を共催 / 協賛を行う。

主な共催会議予定：

- (a) The 8th International Symposium on Artificial Life & Robotics (AROB 8th '03)  
期日：2003 年 1 月 24 日～1 月 26 日，会場：別府，日本
- (b) The 11th International Conference on Advanced Robotics 2003 (ICAR 2003)  
期日：2003 年 6 月 30 日～7 月 3 日，会場：Coimbra, ポルトガル
- (c) 2003 International Symp. on Micromechatronics and Human Science (MHS 2003)  
期日：2003 年 10 月 19 日～10 月 22 日，会場：名古屋，日本
- (d) 2003 International Conference on Multisensor Fusion and Integration for Intelligent Systems (MFI 2003)  
期日：2003 年 10 月 27 日～11 月 1 日，会場：東京，日本
- (e) 2003 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2003)  
期日：2003 年 10 月 27 日～11 月 1 日，会場：Las Vegas, 米国
- (f) International Symposium on Systems & Human Science for Safe, Secure and Reliable Society (SSR 2003)  
期日：2003 年 11 月 19 日～11 月 20 日，会場：大阪，日本

##### 5. その他活動計画

引き続き，各種規程の整備を行う。



【第4号議案】

平成 15 年度収支予算書

I 一般会計

平成 15 年 1 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日まで

収入部 (単位：円)

科 目	予 算 額
1. 基本財産運用収入	10,500
基本財産利息収入	10,500
2. 会費収入	41,240,000
正会員会費	29,240,000
学生会員会費	4,000,000
賛助会員会費	8,000,000
3. 入会金収入	430,000
正会員入会金	130,000
学生会員入会金	300,000
4. 事業収入	29,600,000
会誌掲載料	15,000,000
欧文誌事業	1,000,000
学術講演会	11,920,000
講習会	1,680,000
公開シンポジウム	0
5. 諸収入	7,925,000
利息収入	25,000
広告料収入	4,000,000
資料頒布収入	3,400,000
雑収入	500,000
当期収入合計(A)	79,205,500
前期繰越収支差額	26,259,944
収入合計(B)	105,465,444

注1. 借入金限度額 0円

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額
1. 事業費	46,160,000
会誌事業費	27,300,000
出版費	18,000,000
郵送費	5,300,000
編集費	3,000,000
電子化準備委員会費	1,000,000
欧文誌事業費	4,040,000
編集費	800,000
業務委託費	2,640,000
出版費	600,000
学術講演会開催費	11,920,000
講習会開催費	1,600,000
公開シンポジウム開催費	0
専門委員会費	400,000
研究専門委員会費	300,000
調査専門委員会費	100,000
産業社会委員会費	0
広告制作費	400,000
表彰費	500,000
国際化対応費	0
2. 管理費	37,150,000
総会費	750,000
給料手当	17,670,000
臨時雇賃金	2,100,000
福利厚生費	1,500,000
旅費交通費	180,000
通信運搬費	1,200,000
備品消耗品費	1,000,000
会議費	600,000
印刷製本費	1,000,000
光熱水料費	500,000
賃借料	7,200,000
諸謝金	1,300,000
租税公課	800,000
雑費	600,000
会費収納費	750,000
3. 雑損失	1,300,000
雑損失	1,300,000
4. 特定預金支出	1,000,000
退職給与引当預金支出	1,000,000
5. 繰入金支出	0
学会運営特別会計繰入金支出	0
6. 予備費	1,500,000
予備費	1,500,000
当期支出合計(C)	87,110,000
当期収支差額(A)-(C)	7,904,500
次期繰越収支差額(B)-(C)	18,355,444

注1. 債務負担額 0円

## II 学会運営特別会計

平成 15 年度学会運営特別会計収支予算書  
平成 15 年 1 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日まで

収入の部 (単位：円)	
科 目	予 算 額
1 事業収入	0
2 利息収入	40,000
3 雑収入	0
4 一般会計より繰入	0
当期収入合計	40,000
前期繰越収支差額	70,767,265
収入合計	70,807,265

支出の部 (単位：円)	
科 目	予 算 額
1 事業費	0
20 周年記念事業費用	0
2 雑損失	0
当期支出合計	0
当期収支差額	40,000
次期繰越収支差額	70,807,265

## III 国際会議および共催会議基金特別会計

平成 15 年度国際会議および共催会議基金特別会計収支予算書  
平成 15 年 1 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日まで

収入の部 (単位：円)	
科 目	予 算 額
1 事業収入	0
2 利息収入	500
3 雑収入	0
4 一般会計より繰入	0
当期収入合計	500
前期繰越収支差額	8,507,137
収入合計	8,507,637

支出の部 (単位：円)	
科 目	予 算 額
1 事業費	1,294,000
共催競技会賞品	274,000
国際会議派遣費	1,000,000
雑費	20,000
2 雑損失	0
当期支出合計	1,294,000
当期収支差額	1,293,500
次期繰越収支差額	7,213,637

## 【第 5 号議案】

個人会員除名処分の件

日本ロボット学会定款の第 11 条(2)に基づき除名処分を行う。  
除名対象者数を以下に示す。

正会員 45 名  
学生会員 79 名  
合 計 124 名



(社)日本ロボット学会平成15・16年度(2003・2004年度)役員

正会員による選挙を経て、第21回通常総会において次のとおり選挙されました。

<p>理事 会長 *吉川 恒夫(京都大学) 副会長 *内山 隆((株)富士通研) *中野 榮二(東北大学) 庶務 大島 正毅(東京商船大学) *柳原 好孝(東急建設(株)) 財務 駒田 聡((株)富士通研究所) *大西 良孝(三菱電機(株)) *石田 健蔵(ソニー(株)) 企画 中嶋 勝己(川崎重工業(株)) 村上 弘記(石川島播磨工業(株)) *中内 靖(筑波大学)</p>	<p>監 事</p>	<p>会誌 末廣 尚士(産業総合研究所) *生田 幸士(名古屋大学) 欧文誌 田所 諭(神戸大学) *神徳 徹雄(産業総合研究所) 事業 広瀬 茂男(東京工業大学) 高梨 伸彰(日本電気(株)) 小林 宏(東京理科大学) *谷 和男(岐阜大学) *高信 英明(工学院大学) 柿倉 正義(東京電機大学) *江尻 正員(元(株)日立製作所)  *印 2003・2004年度 新役員</p>
---	------------	--

(社)日本ロボット学会平成15・16年度(2003・2004年度)評議員(50音順)

新井 健生(大阪大学)	榊原 伸介(ファナック(株))	長尾 信一(北海道立工業試験場)
荒井 裕彦(産業技術総合研究所)	澤 洋一郎(沼津工業高等専門学校)	中嶋 新一(新潟工科大学)
五百井 清(近畿大学)	下倉健一郎(NTT(株))	永嶋 史朗((株)富士通研究所)
出澤 正徳(電気通信大学)	下笹 洋一(総合警備保障(株))	秦 清治(香川大学)
伊東 明俊(東京電機大学)	下山 勲(東京大学)	平岩 明((株)NTTドコモ)
稲葉 昭夫(岐阜県生産情報技術研究所)	杉本 旭(北九州市立大学)	堀 俊夫(産業技術総合研究所)
井上 健司(大阪大学)	高橋 隆行(東北大学)	前山 祥一(大阪電気通信大学)
岡本 修(茨城工業高等専門学校)	高橋 友一(名城大学)	松野 文俊(東京工業大学)
岡 宏一(高知工科大学)	高本 陽一((株)テムザック)	松日染信人((株)東芝)
菅 和俊((株)日立製作所)	武田 宗久(三菱電機(株))	山崎 宗重((株)安川電機)
倉爪 亮(九州大学)	田代 泰典((株)ナムコ)	
小菅 一弘(東北大学)	田中 雅人((株)安川電機)	

(社)日本ロボット学会平成14・15年度(2002・2003年度)評議員(50音順)

新井 史人(名古屋大学)	河村 篤男(横浜国立大学)	橋本 学(三菱電機(株))
石川 友彦(茨城県工業技術センター)	河村 隆(信州大学)	橋本 亮一(産業技術総合研究所)
伊藤 精二(ソニー(株))	國吉 康夫(東京大学)	長谷川 勉(九州大学)
稲葉 雅幸(東京大学)	久保田 孝(宇宙科学研究所)	原田 研介(広島大学)
井上 康之((株)安川電機)	桑田 享(松下電工(株))	深尾 典久(滋賀県工業技術総合センター)
内山 勝(東北大学)	榊原 聡((株)デンソーウェーブ)	細田 耕(大阪大学)
大須賀公一(京都大学)	杉本 浩一(香川大学)	細田 祐司((株)日立製作所)
大寺 信行((株)神戸製鋼所)	鈴森 康一(岡山大学)	前川 正弘(三洋電機(株))
大西 献(三菱重工業(株))	高西 淳夫(早稲田大学)	松井 俊浩(産業技術総合研究所)
大場光太郎(産業技術総合研究所)	田口 幹(電気通信大学)	三上 貞芳(公立ほこだて未来大学)
岡田 徳次(新潟大学)	武田 行生(東京工業大学)	源 雅彦(エムティラボ)
岡野 秀晴(秋田県立大学)	田中 兼一(日産自動車(株))	宮川 信一((株)東芝)
小田 光茂(宇宙開発事業団)	鴫田 正俊(木更津工業高等専門学校)	横小路泰義(京都大学)
恩田 寿和((株)明電舎)	内藤 貴志((株)豊田中央研究所)	吉田 哲二(清水建設(株))
角館 聡(日本電子力研究所)	長尾 陽一(川崎重工業(株))	米田 完(東京工業大学)
金丸 孝夫(川崎重工業(株))	西田信一郎(航空宇宙技術研究所)	渡邊 睦(鹿児島大学)